

運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、  
誰もが運動に親しむことができる体育科の学習

## I 体育科研究の方向性

### 1 主題設定の理由

体育科においては、児童を取り巻く現状を踏まえ、体育や保健の「見方・考え方」を働かせ、課題を見付け、解決に向けた学習過程を工夫することにより、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成につなげることが重要となります。その際、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ることが重要とされています。

これまでの本校の研究では、運動と多様に関わりながら課題を解決していく過程を大切にしてきました。運動と多様に関わりながら課題を解決することにより、技能の習得に偏ることなく運動に親しむ児童が増加しました。一方、体育の学習が日常的な運動につながっておらず、運動習慣の二極化の状態も依然として見られます。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。体育科における探究する児童の姿として、「課題となる場面から自分で予想を立て、運動と多様に関わりながら、解決方法を考え、実行していくこと」と押さえました。

以上のことから、体育科として求められることと本校の研究の成果と課題を踏まえ、研究主題を「運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、誰もが運動に親しむことができる体育科の学習」と設定しました。課題となる場面を見付け、運動の特性に着目して自分たちで予想を立て、運動を「する」だけでなく「みる、支える、知る」など自己の適性等に応じて、よりよい解決方法を選択していくことで、運動の様々な楽しさを実感します。そして児童全員が「運動は楽しい」という思いをもつことで、技能の有無や優劣や程度等に関わらず、運動に親しんでいけるような資質・能力を育むことができると考えました。

### 2 目指す児童の姿とその具体

**運動と多様に関わり、よりよく課題を解決することを通して、運動に親しむ児童**

「運動と多様に関わる」とは、運動を「する」だけでなく、他者の運動を「みる」、他者の運動を「支える」、運動のこつや成り立ちを「知る」等の関わりをすることです。

「よりよく課題を解決する」とは、多様な解決方法から、運動との関わりの中での気付きや、運動の特性、運動の価値に着目して、よりよい方法を選択し、課題を解決することです。

「運動に親しむ」とは、技能の有無や優劣や程度を問わず、誰もが自分に合った運動を楽しめる状態であることです。

## II 研究内容の具体

### 1 自己やグループに合った課題発見のための単元構成

誰もが運動に親しむことができるようにするには、運動がもつ楽しさを十分味わったり、健康・安全の大切さに気付いたりしていく中で、児童一人一人が自己やグループに合った課題を発見し、解決までのプロセスを計画していくことが重要です。そこで、課題発見のために効果的な単元構成を考えました。

#### ○誰もが運動の特性を理解し、運動に親しむことができるような教材の設定

- ・内容的視点（分かる、できる、関わる）から学習内容を再構成する。
- ・方法的視点（学習機会の平等、発達段階や興味・関心、プレイ性の確保）を基に児童の学習意欲を喚起するように再構成する。

#### ○試しの活動の充実

- ・単元スタート時の自己やグループの現状を把握できるように、試しの活動を設定する。

### 2 誰もが運動に親しむことができる指導の工夫

誰もが運動に親しむことができるようにするためには、運動の中で課題となる場面を見付け、授業の中で自己に合った運動との関わりをし、運動の特性に着目しながら、課題を解決していくことが重要です。この際、児童が運動をする中で課題意識が生まれるように働きかけます。そうすることで、児童にとって必要な学びとなり、よりよい課題解決へとつなげることができるからです。そこで、指導の工夫を考えました。

#### ○動いてみた感覚や運動のこつを共有する学習カードや動画の活用

（例）5年「跳び箱運動」

- ・跳び箱運動の局面が分かれている連続図を活用する。必ずしも毎時間記入するのではなく、試しの活動後の振り返りや課題解決に向けての練習での話合いに活用する。
- ・撮影するポイントや動画を「みる」視点を考える場面を設定し、明確にする。
- ・学習カードや動画は、ロイロノート・スクールの提出箱で共有する。

#### ○運動の関わりを明確にした練習方法

- ・場の配置図や練習方法図などで「みる」視点や「支える」ポイントを明確にする。
- ・役割や練習を円滑に進める関わり方を明確にする。

#### ○よりよく課題を解決する場やグループの設定

（例）6年「フィールドアスレチック」

- ・課題を基に練習の場を設定する。ペアチームを設定し、練習を共に行ったり、試合を見合ったりし、チームの現状を把握したり、動きのこつに着目したりできるようにする。

### 3 学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価

児童全員が自分に合った運動との関わりをし、運動に親しむことができるようにするためには、児童自身が「できる」「できない」にこだわらず、適切に自分の現状を把握し、学んだことを振り返り、次時や他の単元の学びに生かしていく必要があります。そこで、評価の在り方について考えました。

#### ○自己評価

- ・体育ノートを活用し、自己の現状や問題に対する解決方法を蓄積していき、次時につなげられるようにする。

#### ○運動の多様な価値を認める相互評価の工夫

- ・よい動きや、よりよい動きのアドバイスができるような場づくりや壁面ボードなどの教具を用意する。
- ・主体的に学習に取り組む態度における「共生」「協力」を重点として、相互評価の機会を設定する。

#### ○課題発見、課題解決につながる効果的なフィードバック

- ・課題例、解決例を作成し、児童が解決すべき適切な課題を配列する。
- ・課題解決状況と活動のねらいを基に、何が、どのように高まっているのかを具体的に伝える。

### < 2年次研究の重点 >

- ・誰もが運動に親しむことができる指導の工夫
- ・学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価

### Ⅲ 研究実践

## 5年生実践『跳び箱運動』

実践のテーマ： グループでよりよく課題を解決することで、  
誰もが跳び箱運動を楽しむ学習

### 1 研究授業のねらい

本単元は、「B 器械運動 ウ 跳び箱運動」に分類される単元です。技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。自己の能力に適した繰り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることをねらいとしています。

本単元は、器械運動の特性であるフォームなどの基準に挑戦し達成感を味わうとともに、集団演技に挑戦し、友達と動きを合わせて跳んだり、集団でリズムよく跳んだりするなど跳び箱運動の楽しみ方が広がるよう単元構成をしました。この際、連続図を活用し、気付いたことを蓄積していくことで自己やグループの課題が明確になるようにしました。また、相互評価をする機会を設定し、相手の運動にも貢献できていると実感できるようにすることで、次の活動への意欲につながるようにしました。これらの手立てによって、仲間と関わりながら自己やグループの課題に合った練習をしたり、演技構成を考えたりして、楽しんで跳び箱運動をすることができる学習を目指しました。

### 2 単元の指導計画（6時間扱い）



時	学習内容・学習活動	運動と多様に関わる児童の姿
5年	「けがの予防」 ○けがの防止には周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を整えることが必要であることを理解する。 ○けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、技能を身に付けている。	
①	◇単元の見通しをもつ ○場の準備の仕方の確認 ○跳び箱運動に親しむための準備運動 ○試しの活動（開脚跳び、台上前転） ○見本演技動画の視聴 ○単元のゴール（跳び箱集団演技）の設定 ○振り返り  技の完成度を高め、跳び箱集団演技に挑戦しよう！	【知る】協力して用具の準備の仕方を確認する。技に挑戦し、自己の現状を把握し、単元の見通しをもつ。
② ③	◇自己の能力に合った課題の解決に向けての練習をする。 ○跳び箱運動に親しむための準備運動と場の準備 ○ねらいと学習内容の確認  発表会に向けて自分の技を増やし、完成度を高めよう。  ○課題の解決に向けての練習 ○集団演技の構成を考える ○本時のまとめと振り返り	【知る】技の行い方や技のこつを確認する。自己の課題を見付けている。 【みる】グループで技を見合ったり気付いたことを伝え合ったりして、技のこつや新たな課題を見付けている。 【支える】場の準備や補助をする。
④ (本時) ⑤	◇集団演技発表会に向けてグループ練習をする。 ○跳び箱運動に親しむための準備運動と場の準備 ○ねらいと学習内容の確認 ○集団演技の練習 ○集団演技の練習 ○本時のまとめと振り返り	【知る】発展技の行い方や運動のポイントを知る。 【みる】課題を意識して、友達の演技を見て、アドバイスをする。 【支える】場の準備や補助をする。
⑥	◇跳び箱集団演技発表会の練習と発表会をする ○跳び箱運動に親しむための準備運動と場の準備 ○ねらいと学習内容の確認 ○跳び箱集団演技発表会のための練習 ○跳び箱集団演技発表会 ○本時のまとめと単元の振り返り  グループで協力することで、集団演技の完成度が高まり、楽しい跳び箱運動になった。	【みる】技のこつを意識して、友達の演技を見て、よかったところを伝える。 【支える】司会進行や場や準備をして、発表会を運営する。

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

ペアグループと演技を見合い、完成度を高めるための技のこつを見付け、見付けた技のこつを伝え合っている。

#### (2) 本時の展開(6時間扱いの4時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 飛び箱運動に親しむための準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎ跳び ・かえる跳び</li> <li>・前転 ・アンテナブリッジ</li> </ul> <p>2 本時のねらいの確認</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">集団演技に挑戦し、完成度を高めるための技のこつを見付け、伝え合おう。</p>	<p><b>【飛び箱集団演技ルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1分間の演技</li> <li>・飛び箱の配置は変えない</li> <li>・段数は基本的には変えない<small>(変える場合は授業相談)</small></li> <li>・1人2回以上跳ぶ<small>(補助をするのは可)</small></li> <li>・シンクロ跳びは必ず行う</li> <li>・最後はグループで決めポーズ</li> </ul> <p>※安全第一 (よい挑戦=段数の挑戦)</p> 
<p>3 学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで本時の流れと集団演技の構成、交流の仕方の確認をする。</li> </ul> <p>4 集団演技の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンクロ跳びを中心に場を選んで練習する。</li> <li>・シンクロ跳びの完成度はグループの仲間が見る。</li> <li>・必要に応じて動画を撮影する。</li> </ul> <p>5 集団演技交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアグループで発表を見合い、アドバイスをし合う。</li> <li> 動画を撮影し、シンクロ跳びの動きが合っているか確認する。</li> <li>・アドバイスし合った相手の関わりのよさを伝える(相互評価)。</li> </ul> <p>6 集団演技の練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスを生かし、シンクロ跳びのペアと練習をする。</li> </ul> <p>7 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価</li> <li>・全体での振り返り</li> </ul>	<p>○グループの課題やペアで揃えるところを確認しながら、練習に取り組めるようにする。</p> <p>○グループ内で、演技構成やシンクロ跳びで合わせるポイントを確認し、練習する。</p> <p><b>◇誰もが運動に親しむことができる指導の工夫</b> <b>研究視点2</b></p> <p>○ペアグループで、技のこつや、シンクロ跳びを合わせるポイントを伝え合う場を設定し、よさや課題を明確にする。</p> <p><b>◇学びを振り返り、運動の多様な価値を認める評価</b> <b>研究視点3</b></p> <p>○ペアグループのアドバイスをし合った相手に関わりのよさを伝え合う場を設定し、仲間の運動に貢献できていることを実感できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【イ 思考・判断・表現】</b> 技の完成度を高めるための技のこつを見付け、見付けたこつを伝え合っている。(観察, ロイロノート)</p> <p><b>【ウ 主体的に学習に取り組む態度】</b> <b>【共生】</b> ペアグループやペアの考えや取組を認めている。(観察, ロイロノート)</p> </div>
<p>仲間からアドバイスをもらい練習することで、技の完成度が高まり動きも合わせられるようになってきた</p>	
<p>※場の変更が必要かどうか確認する。</p>	

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

技の完成度を高めるためにペアグループの取組や考えを認め、動きを合わせて跳んだり、リズムよく跳んだりするこつをアドバイスし合っている姿。



## 誰もが運動に親しむことができる指導の工夫（連続図の活用）

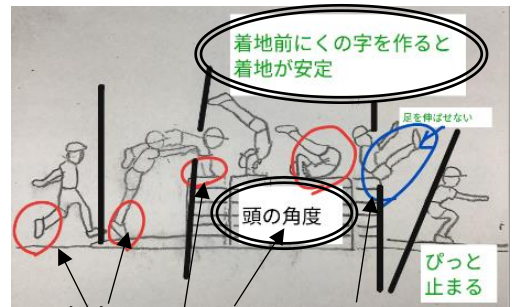
運動の特性に着目できるようにするには、動いてみた感覚や運動のこつを、共通の言語として表現できるようにすることが重要です。しかし、自分の運動を客観的に捉え、共通の言語として表現することは、簡単なことではありません。

そこで、本単元では、ロイロノート・スクールのテキストカードを活用しました。跳び箱運動の局面（予備踏み切り、踏み切り、第1空中局面、着手、第2空中局面、着地）が分かっている連続図をテキストカードとして児童に配付しました。必ずしも毎時間記入するのではなく、試しの活動後の振り返りに活用したり、課題解決に向けての練習で話合いに活用したりしました。

単元導入では、試しの活動を行い、跳んでみた感覚や友達からのアドバイスを基に、連続図に課題となる局面と意識する部位に印や擬態語を書き加えました。

2、3時間目の練習では、自分の連続図を見せた上で、友達に技を見てもらい、アドバイスをもらえるようにしました。A児は、友達から「もう少し体を丸くした方が回りやすいよ。特に頭から首にかけての角度を意識してみて。」と、アドバイスをもらいました。A児の連続図における記述には、「頭の角度」と加筆され、教師が「どんなこつを見つけたの。」と尋ねると「着手後に頭の後ろを着けて回るときは、角度が大切だと分かりました。」と答えるなど、どの局面のどの部位を意識するのかを言語化することができていました。

本時の集団演技交流では、動きを合わせて跳んだり、集団でリズムよく跳んだりできているかをペアグループと見合い、アドバイスをし合いました。A児は、ペアグループの仲間から「ペアと着地の前までは揃っているから、着地が揃うといいね。」と、アドバイスをもらいました。A児は、アドバイスを基に、どのようにしたら着地が揃うのかを考え、「着地前に、くの字を作ると着地が安定する。」ということに気付き、連続図に加筆しました。その後、A児は、ペアで気付いた技のこつを伝え合いながら、シンクロ跳びを練習し、課題を解決しました。連続図を活用することで、跳び箱運動の特性に着目し、よりよく課題を解決することにつながりました。



安定してできる 課題  
【A児の連続図における記述】

## 学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価

単元の評価計画における、主体的に学習に取り組む態度「共生（4時間目）」と「協力（6時間目）」を重点として、相互評価をする機会を設定しました。

本時では、ペアグループと集団演技を見せ合った後、気付いたことを交流し、その後に相互評価をする機会を設定しました。本時は「共生」を評価の重点としていたので、児童は「運動に貢献しようとしている児童の具体例」の「認め合い」を参考に、ペアグループの中の1人について評価しました。お互いに運動のこつを伝え合う中で、気付いた相手の関わり方のよさを評価し、ロイロノート・スクールのテキストカードに書き、提出箱に提出しました。提出箱の回答共有により、評価された児童が、すぐに見られるようにしました。

テキストカードの記述から、友達の関わり方のよさを見付け、伝えようとしていることが分かりました。また、評価をもらった児童の本時の振り返りから、「友達のアドバイスを生かして練習すると、フォームがよくなりました。素直に聞くことが、あらためて大切だと分かりました。自分も友達にアドバイスをしたいこうと思

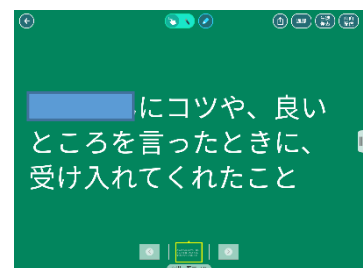
### 「認め合い」（共生）

- ① 仲間の意見をよく聞いて、互いに考えた動きを取り入れて運動している。
- ② 仲間の動きを積極的に真似している。
- ③ 仲間の意見を否定しないで受け入れている。
- ④ 仲間のよい動きをたくさん見付けて、発表したり書いたりしている。

### 「助け合い」（協力）

- ① 誰とでも仲良く運動している。
- ② いろいろな人とペアやグループになっている。
- ③ 仲間にアドバイスしたり、教え合ったりしている。
- ④ 困っている仲間に声を掛けている。
- ⑤（単元のゴール）成功させるために、みんなと協力している。

### 【運動に貢献しようとしている児童の具体例】



【提出したテキストカード】

います。」など、「みる」「支える」等、運動との多様な関わりをしていこうとする意欲につながったことも分かりました。

一方で、相互評価のテキストカードを提出することができない児童もいました。しかし、提出できなかった児童も、グループの仲間や演技をするペアに、新たな課題を伝えるなどして、よりよく課題を解決しようとしていました。相互評価を行う場面をどの場面で設定するかについては、学習内容や児童の課題解決の状況から、更に検討していく必要があると考えました。

## IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、「誰もが運動に親しむことができる指導の工夫」「学びを振り返り運動の多様な価値を認める評価」を重点とし、研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 連続図を活用して、運動を言語化したり、課題解決に向けて話し合ったりすることで、運動の特性に着目し、課題を発見することにつながりました。
- 連続図を活用して、互いの課題を知った上で交流することで、「みる」視点が定まり、アドバイスしやすくなったり、自分たちで解決方法を考えたりするなど、よりよく課題を解決する姿につながりました。
- 相互評価を受け取る機会を設定し、運動に貢献できていることを実感することで、次の活動への意欲につなげることができました。

### 2 今後の課題

- すべての児童の学習機会を保障していくには、連続図などの学習カードの活用場面や方法を、児童のつまずきを踏まえた授業デザインから更に考えていく必要があります。
- 主体的に学習に取り組む態度の評価場面については、年間指導計画を見通し、評価機会の重点化を図っていく必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 初等教育資料 No. 971「豊かなスポーツライフの実現」  
東洋館出版社 平成30年9月
- 初等教育資料 No. 1001「体育科における『学びに向かう力、人間性等』の指導と評価の充実」  
東洋館出版社 令和2年12月
- 体育科教育「体育における『かかわり』の再検討」 大修館書店 平成30年11月
- 体育科教育「深い学びへ誘う体育の授業づくり」 大修館書店 平成31年4月
- 体育科教育「これからの体育の学習評価の方向性」 大修館書店 令和元年5月
- 体育科教育「学校体育における『みる・支える・知る』スポーツって？」 大修館書店  
令和元年7月
- 体育科教育「中・高校の体育を徹底解剖！」 大修館書店 令和元年9月
- 体育科教育「新しい体育の授業デザイン」 大修館書店 令和元年10月
- 体育の教材を創る 岩田靖 大修館書店 平成24年2月
- アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習 溝上慎一 東信堂 平成28年3月
- 平成29年版小学校学習指導要領ポイント総整理 岡出美則・植田誠治  
東洋館出版社 平成29年12月
- 「資質・能力」を育むボール運動の授業づくり 岩田靖 大修館書店 平成30年8月
- アクティブラーニングで学ぶ小学校体育の授業づくり 鈴木直樹 大学教育出版  
平成31年4月
- 真正の「教体育」をつくる 梅澤秋久・苫野一徳 大修館書店 令和2年3月